

## 活用力育成には、学びの文脈にゆさぶりを！

2月8日(金)に「児童生徒の活用力向上研究指定事業に係る第2回指定校連絡会」を教育センターで開催しました。講師に大妻女子大学 家政学部児童学科 准教授 榊山敏郎 氏をお招きし、「活用する力の向上に向けた授業の改善」という題で講演いただきました。

講演の概要と、参加された先生方の感想を以下に紹介します。



### 講演のポイント

探究的な学びの中に、  
習得と活用のバランスが重要！

#### 【活用力を高める3つのポイント】

##### 1 「知識の理解の質を高める」

⇒個別の知識が相互に関連付けられて、社会の中で生きて働くものにしなければならない。そのためには、習得した知識の意味を考える授業（なぜ、そうなっているのか考える等）が必要。

##### 2 「文脈をゆさぶる」

⇒授業の中で、教師がエラーモデルや不完全なモデルを示して、何がおかしいのか考えさせたり、必要な情報を取捨選択させたりするなど、目的を明確にして、状況・条件などをゆさぶり（変え）、授業の山場をつくってほしい。

##### 3 「多読多書（多く読んで、多く書く）」

⇒児童生徒に与える情報の量（長文、複数）、それを基にして書く量に負荷を与えることも必要。

- 「言語活動の充実」は、これからも大切にしていってほしい。言語活動を活性化させることが活用力の育成という意味では大切である。
- 児童生徒が考えて表現したものに対して、何がだめで、何が中くらいで、何がよいのかを教師がきちんと評価を示してほしい。
- 学習状況調査の結果から見えてきた課題に対して、1つ1つ対処療法的にやっているという現実はないだろうか。指導の工夫をしても同じような課題が見られるというのは、「教師がやったつもり」「教師が教えたつもり」になっていないだろうか。
- 「めあて」「まとめ」「振り返り」をする、話し合いの場を設定する等、教師間での学習指導の統一感が必要。中学校においては難しい部分もあるかもしれないが、教科の壁を越えていくことが大切である。
- 成果が見られている学校には、「気持ちのそろった教職員集団」「豊かなつながりを生み出す生徒指導（あいさつ、整理整頓などから）」「全ての子どもの学びを支える個に応じた学習指導」「家庭とのパートナーシップ」等の特徴が見られる。
- 教師はエドューケーターであり、インストラクターであるだけでなく、ファシリテーターでなければならない。教師のファシリテーターとしての役割には、「場を作って、つなげる」、「受け止めて、引き出す」、「かみあわせて、整理する」、「まとめて、分かち合う」がある。

### 参加者の感想

- ・教師間で意識の共有を図り、育てたい力を明確にするとともに、指導の方向性をそろえたい。
- ・今後の授業研究の方向性を決めていくキーワードが見えたように思う。
- ・教師が簡単に知識を与えず、苦勞して児童生徒につかませるようにしたい。
- ・国語の力をより高めていくことが、全てにわたって大切であることを実感した。
- ・書く活動の充実、読書活動の充実に来年度重点的に取り組みたい。

# 大切なのは、全職員による「共通理解と共通実践」

2月7日（木）に「佐賀県学力向上対策検証・改善委員会」を開催しました。佐賀県小・中学校学習状況調査〔12月調査〕の結果報告を基に、学力向上対策に関して大学関係者や有識者、保護者など様々な立場の方からご意見をうかがうことができました。

## 1 学校が一体となった取組について

- 学力向上対策コーディネーター等が積極的に提案をするなど **リーダーとしての役割を果たし、全職員で統一して取り組んでいる学校は成果につながっている。**
- 学力が定着していない子どもに対して、多くの教師が関わり底上げを図っている。
- 学力向上には、**全職員での共通実践**が重要である。

## 2 理科教育の充実について

- 中学校理科教員の小学校での任用、小中の交流授業、高校理科教員の中学校での授業などが理科教育の充実につながるのではないかと感じる。

## 3 研修会の充実について

- 授業ポイントの共有、授業のUD化に取り組むことで、**教科を越えた意見交換**ができる。

## 4 学習習慣の確立について

- 分からなかった所はすぐに辞書を引く等、**疑問をすぐに解決に向かわせる姿勢**が大切。
- **子どもたちの興味や関心を引き出す授業**は、子どもの意欲や学力を伸ばすことがポイントである。
- 小学校高学年になると、学習内容も深まり、保護者も関わるのが難しくなることがある。

## 5 その他

- 学習状況調査結果を分析して、どのように改善を行っていくかが大切であると思う。
- 子どもたちの幼少期からの学びの環境を整えてやる必要性を感じる。小中連携も大切だが、幼保小中と連携を推進していくことが大切であると感じる。
- 電子黒板を使った授業を参観して面白いと感じた。ICTのよいところを活用して授業を行っていただきたい。子どもたちが楽しいと思う授業を展開してほしい。
- 子どもたちが学ぶ場を地域で作るとともに、子どもと一緒に大人も学ぶ場を作ることが大切ではないかと思う。
- 主体的に学ぶ姿勢が大切だと思う。県内の企業にも海外から研修生が来ているが、学ぼうとする意欲が高いと感じる。



## インフォメーション

2/22公開

### 平成30年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔12月調査〕Web報告書

教育センターホームページにおいて、県調査の分析結果についてまとめたWeb報告書が公開されています。この報告書には、各教科の成果と課題及び指導改善のポイントがまとめられています。

また、課題の見られた設問の誤答例とその分析も紹介されています。ぜひご覧いただき、各学校における児童生徒の学力向上に向けた取組にお役立てください。

【URL】 [http://www.saga-ed.jp/kenkyu/scholastic\\_attainments\\_analysis/H30\\_12\\_Webreport\\_center/index.html](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/scholastic_attainments_analysis/H30_12_Webreport_center/index.html)